

令和2年12月定例会 決算特別委員会の概要

日時 令和2年12月16日(水) 開会 午後 1時 1分
閉会 午後 1時12分

場所 第3委員会室

出席委員 武内政文委員長

永瀬秀樹副委員長

山口京子委員、高木功介委員、宮崎吾一委員、関根信明委員、宇田川幸夫委員、

小川真一郎委員、高橋政雄委員、小谷野五雄委員、江原久美子委員、

岡重夫委員、東間亜由子委員、深谷顕史委員、石渡豊委員、秋山文和委員

欠席委員 杉田茂実委員、田並尚明委員

説明者 なし

会議に付した事件並びに審査結果

議案

議案番号	件名	結果
第107号	令和元年度埼玉県的一般会計及び特別会計決算の認定について	認定
第108号	令和元年度埼玉県公営企業会計決算の認定について	認定

【付託議案に対する討論】

秋山委員

第107号議案と第108号議案は、決算認定として関連していることから一括して討論する。

反対の第1の理由は、重度心身障害者医療費助成制度について、平成31年1月から新規申請者対象の所得制限を導入し、令和元年度から本格的に実施されたからである。この結果、432人の重度障害者がこの制度から排除された。令和6年度からは、新規申請者だけではなく、これまで適用を受けてきた障害者も所得によって排除される。障害者が生きていく上で、多くの場合、医療受診は必要不可欠である。所得を理由に医療助成から排除すべきではない。

第2の理由は、一般会計・特別会計及び公営企業会計ともに、消費税を関連施設等の料金や負担金に転嫁し、県民の負担増をもたらしたからである。

以上、指摘して反対討論とする。

東間委員

会派を代表し、第107号議案及び第108号議案について、賛成の立場から討論を行う。

まず、第107号議案「令和元年度埼玉県一般会計及び特別会計決算の認定について」申し上げる。令和元年度一般会計の決算は、歳入・歳出ともに前年度を上回り、平成10年度、平成11年度に次いで過去3番目に大きい規模となった。

歳入においては、県税収入は微減となったものの、選挙の執行、災害対応に伴う国庫支出金や、財源調整のための県債管理基金からの繰入金、地方交付税の増加などにより、歳入の確保が図られた。

歳出においては、「埼玉県5か年計画」に基づく各施策を推進するとともに、厳しい財政状態が続く中でも、活力にあふれ明るく健やかな本県の新時代を築くため、重点施策に取り組んだ。また、平成31年4月7日の県議会議員一般選挙に始まり、参議院議員通常選挙、知事選挙、参議院議員補欠選挙までの四つの選挙の執行をはじめ、豚熱の発生や令和元年東日本台風による災害への対応、新型コロナウイルス感染症対策など、例年にはない予算執行もある中、機動的な財政運営により対応された。限られた財源の中で、各種事業の執行を通じて必要な県民サービスの継続・充実がしっかりと行われたものと評価している。

以上のことから、第107号議案については、全体として適正かつ効率的な予算執行がなされていることを認め、認定に賛成するものである。

次に、第108号議案「令和元年度埼玉県公営企業会計決算の認定について」申し上げる。

まず、企業局では、水道用水及び工業用水の供給事業並びに産業団地の整備事業を行い、県民生活の安心・安全の確保及び県内の産業振興に大きな役割を果たしている。また、効率的な業務運営に努め、企業局が行っている3事業全てが健全な経営を継続していることも、高く評価できるものである。

次に、病院局所管の病院事業会計については、医業収益が過去最高の427億円に達し、医業収支も経営改善の取組により、前年度比で7億円改善した。また、全体の収支として

は最終的に15億円の純損失を計上したものの、前年度比で3億円改善している点は評価できる。

最後に、下水道局所管の流域下水道事業会計では、県民の安全で快適な生活環境を維持するため、老朽化が進む施設の修繕や、大規模地震、従来の想定を超える集中豪雨に対する災害対策、バイオガス発電事業など下水道資源の有効活用を計画的に実施するなど、安定的な経営に取り組んでいる点を評価する。

以上のことから、第108号議案についても、認定に賛成するものである。